



陳情 27第 4 号

14 回目の地球社会建設決議陳情書

平成 27 年 8 月 6 日

つくば市 議会
議長 塩田 尚 殿

陳情者
〒

人類の戦争放棄宣言

地球社会建設決議草案(戦争のない世界実現への基本原則)

- 1) 全ての人間が、地球で共同生活をしている地球市民である。地球市民は、地球の尊さ、人間の尊厳の尊さ、地球世界の美しさ、人間の美しさを知る者である。
- 2) 地球社会の安全と繁栄に努力する事が、地球市民の基本的義務であり、責任である。
- 3) 地球社会の目的・目標は、全ての人間の人生を守る事にある。その為、教育・雇用・生活を保障する社会技術の開発に努めねばならない。この規定は、人類の戦争放棄を意味し、国家の戦争行為、戦争準備行為の権利がない事を宣言するものである。地球市民を暴力から守る「守り人の組織」は、地球社会で一元化されるものである。
- 4) 人道・人権は地球社会の基本法である。独裁は如何なる形態でも許されない。地球社会は、民主主義が機能する社会格で構築されるものである。行き過ぎた生存競争は、人間の醜悪な心を導き出し、強大な力を求めさせ、この基本法に反する事になる事を知らねばならない。
- 5) 陸・海・空の空間、石油他の資源、先人の遺産は、現存する地球市民全員のものである。地球市民の生活空間は、賃借関係保障によるものであり、多大な占有はあり得ない。地球社会で領土問題はあり得ない。
- 6) 考える事さえ出来ない時間、そして考えられない偶然の積み重ねで、生命が守られる地球環境がある。この地球環境の保全こそ、全てに優先されるべきである。

沖縄の方々。戦争に反対の方々。何故、この決議をして、この決議を、日米政府、中国政府、世界に突き付けようとしませんか。

私は、広島市長選で、沖縄の軍事基地撤廃は、核廃絶と一体である、と主張しました。沖縄の方々、地球社会建設決議を行い、「地球を守る事を第一義とする地球市民の立場を確立」すれば、日米政府、他に、核廃絶そして、沖縄の軍事基地撤廃を、正当な根拠と立場で、要請ではなく、命じる事が出来るのです。沖縄の方々だけではありません。人々は、地球の危機が解らず国益を優先させている愚かな人間達に、自分達の生命を握られている状態を、何故、容認しているのでしょうか。軍備に狂奔している国家権力者達、他人から搾取し使えないカネを増やしている愚か者達、狂信者達に自分の命を委ねているのは、何故でしょうか。何故、自分達を、自分達で、努力で、行動で守ろうとしないのですか。

宇宙船地球号の危機を救えるのは、地球号乗員全員の努力です。そのプロセスは、アポロ 13 号を救ったプロセスと同一です。乗員・関係者一同が一体になったプロセスです。人類全員を乗せて、宇宙船地球号が飛行しています。人類が、一人一人の人間が生きられる場はこの宇宙船だけです。

宇宙船地球号の運営の仕方

宇宙船地球号は、広大無辺の時間を経て、自然の摂理という力によって、生命維持環境を創り上げ、地球と云う生命体を生成しました。人間達は、その生命体の細胞であるにもかかわらず、この尊い生命体を殺そうとしています。無限の広大さの中の宇宙で、唯一、生命が生きられる星を「宇宙船地球号」と形容するのは、正確な認識でしょう。

宇宙船地球号が危なくなったのは、この地球号を人間達が意識する事をしなかった為です。人間が、この地球号こそ生存の源である事を、意識してきたならば、今日の事態が現出する事はなかったでしょう。この意識がなかった為、人間は生存競争の虜になり、殺し合い・共倒れの寸前に至っています。この意識がなかった為、広大無辺の時間で創られた「生命維持環境」を壊しています。

この「宇宙船地球号」を人間達が意識すれば、この地球号を守る生き方を、必ず、見出すでしょう。

宇宙船地球号を危なくした原因を見出し、その原因を排除し、その原因を創ってきた、今迄の生き方を反省し、宇宙船地球号を守る生き方に変えればいいのです。

簡略に云えば、兵器をなくす、化石燃料を使わない、という事です。兵器を作らせてきた考え、化石燃料を使わせてきた考えをなくす、という事です。この考えの根源は、生存競争です。弱ければ殺される・支配される・奴隷にされる・搾取される。人間の歴史が描いてきた事実です。強くならねばならなかったのです。強大な力を求めてきたのです。

現時点、その限界に達し、共に滅びようとしているのです。考えを変えましょう。

食物連鎖・寿命・天災を含め、自然の摂理は、生命の環境とバランスを保つ為に動き、生命を大きな愛で包んでいます。「助け合う」行為が、人間を発展させ、守ってきました。

目先の生存競争が、人間を「愚か」にしてきました。

宇宙船地球号の乗組員である、という事実を認識する事は困難ではありません。当然、この船の中での内部抗争は、許されない事も理解します。人々は、この船の中での何らかの部署に所属し、その部署の責任を果たす責任を自覚します。

宇宙船地球号を構成し、運営する為に、各種の部門が必要であり、その各部門が宇宙船の中で統一されて運営されなければならない、と考えています。宇宙船の方向性を一定させるのはメディア部門、暴力の破壊から守るのは守り人部門、生活保障部門は通貨部門、交通を守るのは交通アクセス部門、大気・水・土壌を守る部門、エネルギーを提供する部門、・・・これ等の部門は、地球社会建設決議の枠内での働きで、その機能が遂行され、地球号の運航が、安全になります。今、保健衛生部門は、統一され、その機能を発揮しています。他の部門も、統一され、その責任を果たさなければなりません。これ等の組織をどう創っていくか。次世代の方々の仕事です。私達は、その方向付けに努力する事だと考えています。みなみかつよし著、三五館出版 「18 cmの奇跡」が教えてくれています。この船を守る根源は「土」を守る事にある事を。「土の中の微生物が生命の源」である事を。この根源を前提にして、人間の生き方を構成していけば、宇宙船地球号の部署が浮かび上がってくるでしょう。

2015年6月26日

世論は法律になり得る

私は、「世界の世論」が世界政府であり、その世論の下、民主主義が可能な社会格の中で、当然、「警察力と裁判」が必要だと、認識しています。

「法律」。人間の生き方を縛り、勝手な行動を禁じ、社会を安定させるものです。秩序を固定させるものです。この法律を無視、破る事は、犯罪者の立場になり、犯罪者を拘束する物理的に屈服する事になります。この法律は、「生殺与奪の力」を背景にして、成立しています。「生殺与奪の力」が、人間を縛る法律を産み出します。殺し合いの闘争を制した人間が、「生殺与奪の力」を獲得し、権力を掌握し、法律を創るのです。

不正義が合法化され、悲惨な歴史を記述してきたのは、このメカニズムがしてきた事です。その主役が「警察力と裁判」でした。ナチスが権力を確立したのは警察官僚の暴力でした。法とは縛りです。縛りは力です。他人を縛る事は、支配出来る現実を与えてくれます。縛りは緩やかでないで、抑圧に繋がり、不自由に繋がります。世論が法の役割を十分に果たす事が可能です。人間社会の原則が世論になれば、その世論は「法律」になり得るのです。強すぎる「警察力と裁判」は危険です。

戦争は国際社会の生理

「戦争の発生の原因」を掴んでいただけますか。ある意味、人間社会の生理と云えます。人間社会の権力集団・軍人集団が、人間の卵巣・精巣の部門のようです。精巣が軍人集団です。軍人は自分の存在を納得したい為、仕事をしたいという欲望が強い。卵巣は権力集団です。自分の能力を過信し、母性本能が強力であり、その見栄の強さは合理性を超えてしまします。この「生理」が、ドイツをしてベルギーに侵攻させ、第1次世界大戦を発生させ、満州事変を発生させ、ナチスの狂気を発生させました。と、私は考えています。だからこそ、近い時点で、必ず、戦争が発生し、共倒れに陥り、人間は・人類は自滅に至る、と確信を持って発言するのです。

中国の南沙諸島の軍事基地建設は、中国政府の思いで行われている事ではない、と見ています。軍部の思いでしている事だ、と見ています。商取引での大国化の流れを阻害する軍部の行動を苦々しく思っている筈です。しかし、軍部の「仕事をしたい」という欲望を抑える事は、権力集団の基盤を壊す事に繋がる為、出来ないのです。石原莞爾・板垣征四郎という軍人の欲望が発生させた満州事変が、この二人にひきづられるしかなかった権力集団が、歴大な戦争被災者を発生させたのです。この事実を、確認して下さい。

地球は一つの生命体。人間はこの生命体の細胞。

みなみかつゆき著・三五館出版「18 cmの奇跡」を本屋に注文して下さい。

「地球そのものが一つの生命体である」事がよく解ります。人間は、その生命体の一部であり、1細胞である事がよく解ります。この位置・立場を自覚出来れば、地球という生命体の一部の細胞としての生き方が見えてくる筈です。この自覚は、地球市民の自覚よりも深く大きいかもしれません。微生物との共生を理解するようになれば、地球を守る生き方が、確実に見えてくるでしょう。

2015年7月5日

内政干渉が出来るようになる事が、宇宙船地球号を守る道です。

地球社会建設決議をし、地球市民の立場を確立すれば、内政干渉を堂々とする事が出来るようになります。「核兵器の配備を増強する」と発言したブーテン氏を「人類の敵である」と、自治体議会で認定する事は、戦争をなくす上で、重要な行為です。

社会秩序の源泉は「力」ではなく、「納得と合意」です

ある方が、地球社会建設決議の六つの理念は、具体的に云うならば、1) 全世界各国の軍備の完全撤廃 2) 秩序維持の力は世界警察に一元化 3) 地球市民による地球市民全ての人生を守る世界法に基づく世界政府の建設 となるように理解する、と云ってきました。

「秩序維持の力は世界警察に一元化」とは、「秩序の源泉は力である」という考えの表明です。この考えが、ほとんどの人間が、国家権力を容認し、国家の軍備を容認し、核廃絶を阻んできた、と私は考えています。

地球社会では、「秩序の源泉は納得と合意」です。民主主義の本質です。社会運営は、社会構成者の納得と合意で可能になります。この手段の開発、地球社会建設決議の意義を掴んで下さい。「力による強制力、脅迫」は「強大な権力」を産み出し、「抑圧、搾取、奴隷化」を可能にし、「社会を不平等へ導き、怒りと不平・不満で充満させ、格差社会、報復の連鎖に導き、社会を壊す源泉」だからです。「力による強制力、脅迫」は、今迄、「権威」として尊ばれてきたものです。そして、「この権威によって、不正義が合法化され、驚くべき歴史の現象が記述」されてきたのです。

「力は、人間の生命を生殺与奪出来る物理的力」です。生存競争に曝されている人間達にとって、この力こそ、人間の生存競争の本体である事を、本能的に感じているのでしょう。この論理に基づけば、現時点の軍備という暴力の拡大、暴力のさらなる拡大、そして、共倒れに至ろうとしている世界は説明出来ます。「力を秩序の源泉」にしてはなりません。世界政府は、とりたてて、必要ありません。メディアが、世界の方向性を地球市民全員に語り、その考えを集約し、示し、地球市民が、その方向性を合意、納得すれば、世界はその方向に向かう事になります。「強制力・脅迫」が無ければ、この形態になります。この形態が「個人の尊重」を意味する事になります。全世界各国の軍備の完全撤廃、という方向性を地球市民が共有すれば、その為の方策を皆が考えるようになり、軍備の一元化という方向に向かう事でしょう。殺し合いをしてはならない。地球環境を守らねばならない。全ての地球市民の生活が保障されねばならない。という要請が地球社会に求められる時、メディアは、その方策を求める作業を開始する事になるでしょう。その考察は、多くの方々から寄せられ、雨水が川になり、大河になり、広大な海へ注ぐように、その方向、方策は、地球市民の中で、大きく膨らみ、大きな支持を集め、世界世論となって、社会を善導していくでしょう。出来るか出来ないかは、メディアの力量の問題です。現時点のように、地球社会建設決議を突きつけられても、その前で「ボカンとしている」ようなメディアの力量では話になりません。メディアは、人間社会で、民主主義社会で、最重要部署です。メディア人は、その社会的責任を良く自覚し、一般人は、メディアに、この重い社会的責任を果たさせるようにしなければなりません。

2015年6月8日

地球社会の生活保障社会技術草案

この草案は、今迄の経済行動を一変させる考えだと思っています。資本主義という酷薄な生存競争のシステムから脱却し、全ての人間が「宇宙船地球号を守る経済システム」に繋がるのでは、と考えています。

現時点の人間の生活手段は、「通貨という道具」です。この「道具」、いわゆる「カネ」は「道具」であり、この「道具」はいくらでも造る事が出来るものです。徳川時代、初期の経済官僚に、萩原重秀がいました。彼は、「瓦礫でも、幕府が通貨だと云えばカネである」と主張し、小判の金の含有量を80%から30%に落としました。ケインズより、200年前の経済学者だったと云えるでしょう。

地球社会建設決議は、「空間・資源・先人の遺産は、現存する地球市民の共有である」と語っています。空間・資源・先人の遺産は、莫大な資産であり、その管理は、莫大な利権です。この莫大な資産と利権を、通貨機関に委任し、その稼ぎを通貨機関に集中させ、その権利と、全ての人間の生活を保障する責任を、通貨機関に委任するという構想です。

この構想を前提として、「全ての人間の生活保障社会技術」を、それこそ、衣服・料理・住居・農業生産・車、電車、飛行機生産・・・これらの技術開発の凄まじさ、正に凄まじかったという形容がふさわしい技術開発経験を考えれば、必ず、考察出来るでしょう。

この「凄まじかった」のは、資本主義のシステムのお陰です。資本主義は、人間歴史の中で、それなりの役割があった、と考えています。この「凄まじさ」が、今、宇宙船地球号を危機に追い詰めています。地球環境破壊・力の獲得競争・「今だけ、カネだけ、自分だけ」の人間・・・宇宙船地球号は危機に陥っています。

全ての人間を通貨機関に所属させ、通貨機関に全ての人間の生活を保障させます。この通貨機関をどのような組織にするか。この通貨機関の大きさ・エリアをどのような基準で考えるか。能力差、責任差、人間差をどのような基準で考えるか。人間のエゴをどのように取り組んで生活保障するか。人間の心にどれほど配慮出来るか。この通貨機関の責任者は、一見、絶大な力を持つように見えるでしょう。権力を持つ事は出来ません。権力は、「生殺与奪の力」である暴力を背景にした時しか発生しません。他人を支配する事は出来ません。通貨獲得の力量は個人差があります。有能な方が多くの通貨を獲得し、いわゆる贅沢な生活は当然でしょう。しかし、度の外れた通貨獲得はあり得ません。人生に度の外れた通貨はひつようありません。この機関は、全ての通貨の流れを把握します。その流れは、全て公表の対象です。カネ目当ての犯罪は消滅します。

宇宙船地球号を守る、という事は、どれほど大変な事か。宇宙船の乗組員、全員に、この意識を持たせる事が、前提です。

2015年6月9日

属性の感情

属性。人間が誕生した時、刻印されているのが属性です。両親、親戚、一族、地域、言語、文化、文明、宗教、民族、国家。仲間意識が形成され、一体感を共有する感情です。甲子園での応援、オリンピックの応援も、この感情の一現象です。この属性は感情を有しており、この感情が、属性の人々を支配し、行動させてきた事を歴史が記述してきました。戦争という現象も起こしてきた感情です。この感情は、理性、知性に勝ってしまいます。

属性の感情。人間の弱さの最たるものの一つでしょう。集団が感情に突き動かされ、理性・知性を無視した行動をしてしまう事が、多くの悲劇・悲惨を描いてきました。民族感情・国民感情・宗教感情・・・。

甲子園の応援風景は美しいものです。しかし、ヘイトスピーチ・人種差別・経済格差・集団の対立抗争・・・この属性の感情が惹き起している現象の醜さを、人間達は自覚し、この感情に振り回されないように自戒しなければなりません。

ハンナ・アレントが、イスラエルでのアイヒマン裁判傍聴報告「イェルサレムのアイヒマン・悪の陳腐さについての報告書」を発表した時、ユダヤ民族の属性を背負っている方々から、猛反発を受け、「ユダヤへの愛はないのか」とまで詰め寄られ、生存の上での絆であった友人からも背を向けられました。俗にいう「村八分」というペナルティに曝され、厳しい思いをさせられました。この現象を起こしたものは何だったのか、です。アレントは、属性よりも知性・人間性を優先し、この「村八分」に動じる事はありませんでした。

家族意識、仲間意識、郷土意識、同信仰意識、同門意識・・・民族意識。属している属性意識は、誕生時に沁み込んでいる意識です。人間は、この意識に、支配されてきた事実、支配されている事実を、歴史が、日常の行動で明らかにしています。ユダヤの人々が、ハンナ・アレントを「村八分」にした現象。イスラエルがパレスチナの人々への許されない侵害行為の歴史。殺し合いの集団を形成してきた感情・・・属性の感情は、非常に強烈です。この強烈さは、とにかく強烈です。宇宙船地球号の運営に、この感情は「大敵」であり、「克服しなければならない感情」です。この感情がこの船の中で闘いを起こさせ、運航不能にってしまうからです。この作業は「メディアの責任」です。今の世界のほとんどの権力者達は、この感情を利用し、自己の権力の保全・強大化に勤めています。人間社会を劣化し、自滅へと歩ませている事実気付かずに。メディアが、この事実を地球市民に伝えなければならぬのです。

宇宙船地球号のメディアは、一体とならなければ、宇宙船地球号の障害となる要素を排除する作業は出来ません。今現在、そのメディア自身が、「属性の感情を克服する」事が出来ていないようです。メディア人の見識の飛躍と勇気が必要です。一体化は、地球号の基本の方向性を共有すれば出来る事です。一体化を阻害する暴力には、「メディアが一体であるという形」を作れば排除出来ます。例えば、世界中のメディアが「核配備を準備すると語るプーチン」を「人類の敵」と認定すれば、暴力に勝てます。地球号通信でその報道をすれば可能です。

2015年7月2日